



第五卷 第三号

発行所 方城村公民館 和
編集発行人 荒木良
印刷所 有限会社日講印刷
(旧西尾印刷有限会社)

◇原稿募集◇

- 一、論文随筆創作文藝評論何でも建設的なもの(取捨は編集部に一任)
二、詩歌俳句川柳一人二首二句
三、投稿メ切毎月五日
四、投稿先方城村公民館

農村自治の確立には
強力なる指導力

高津久雄

過日は御通信有難度う。懐旧の情禁じ難きものがありましたよ。在鮮當時のことが、事に付け、機に触れて今尚腦裡を去来して居ります。然し過去は過去、現在は現在です。貴下の近況に應えて、村に対する私の感想の一端を書き送ることに致します。私は未だ事実を確めた訳ではありませんが、方城村は、全国の鉄道を通じていない極く少数の村の一つであること云うことあります。定期バスも現在の所、村の入口まで来ている程度で、之が村内への延長は今後の問題にかゝつて居る有様であります。伊田緑金田駅に下車、それから村役場まで約一里の坂道を徒歩で通う交通不便の村であります。東部に福智山に連なる山々を負い、三菱方城鉱業所を、扇の要として、南北に展開している農村であります。近代設備になる三菱炭坑の御蔭で、

実績として、又は事業がもつて、示現されていなければならぬにと思はれます。然るに往時、鬱蒼と繁つていたと云う山林は、其の跡型もなく伐採されて治山の実なく、農家は次ぎ／＼と木の香も新しい家屋に建替えられても旧態依然たる旧家造りで、文化住宅の理想に遠く、道路の改修も区々で後れていると云う一語につきるのです。生産面に於ける農事改良も時代と共に進んだと云う程度で特別の異色を持たない、勿論折角の村是が、中途半端に終つた云うことに付ては、種々内面的事情もあつたに違いないと思はれますが、要は指導の中断と云うことに帰すると思ひます。貴下は、それは何処の町村も同じ事だよと云はれるかも知れません。然し問題は其処にあると私は思ひます。昭和二十二年から実施になつた農地租傳來を誇る地主階級を一挙に撲滅させた大施策でありました。地主層の没落は誠に悲惨で同情に堪えないものがあります。之に引替へ小作農民層には終戦に依り思ふぬ福音が訪れた。小作人が一挙にして自作農になるといふことは、敗戦國民の場合全く夢想だにしなかつた所であつたと想像されます。併し今日の結果から見ると、欲した施策でなく、興えられた施策だと云う感じが深い爲か爲政者が考へた程、小作人には自作農になつた感激と感謝の喜びはなく此の恩恵に生きて是が非でも此の際立派な自作農になり切らねばならぬと云う強い責任感と発憤心は余り期待は出来なない様であります。土地が安価に流れ込んで来たのは、一つに時代の御蔭であること云う感じの方が強いように見受けられます。之は或は私の偏見かも知れませんが地主が没落して、富が均分化された今日の農村は何にか知らん。生氣がなく、

うら寂びしい感じが致します。往時、私共の子供時代には、天を摩するよ様な、樺の大木や、数百年を経た杉の老木や、枝を張つた老松が村の所々に見受けられ、村の由緒と歴史を語るかの如くでありました。それをなくしてしまいました。丁度地主が影を没したが如くにです。民主主義思想の普及は、基本的人權の尊重と相併行して町村自治の上にも、又個人の生活の上にも自主性が強く要求されて居ります。が、事實は何れも期待とは反対の方向に進んでいることが判然と看取されることでもあります。自主的にと云うことは、自分の考へで自分の責任に於てと云うことでありますが、ともすると進歩性を喪つた保守性への逆戻りが考えられます。生活改善が叫ばれた。其の会合の後で泥酔の余り喧嘩口論に花を咲かせたり、会食の跡、心にもない、おせじを以て客を引止めた爲、近所隣りへあわて、追加分の酒を借り廻る滑稽を何の反省もなく繰り返している農家の現状に対しては、自主性の強調も、声を大にしての生活改善も、余り効果は期待されそうもありません。私の愚見ですが、貴下の村のこと知りませんが、矢張り今日の農村に対しては強力なる指導啓蒙施策が必要だと考へられることとあります。充分村の施策を村民に納得させて行く村政の行き方が必要だと云うこととあります。或る有識の人が注意して云うには村を良くする爲には、村民に対する強力なる啓蒙指導がまだ、必要ですよ。それと共に、教育に力を入れることとす。今日の農村は教育の力に依る以外発展進歩を望む道はありませんよと、極論されるのです。自分の村の悪い面ばかりが私の目に映るのかも知れませんが、地方自治の基礎づけとして期待される村民の自主性を幾らかでも土培うて行く指導推進力が先ず必要であること云うことと思ひ到るのですが、然らば其の強力にして継続的である推進力を一体誰が引受くべきか、結局問題をなすのです。此処迄思ひ到ると、私も農村自治の向上伸展を前にして、腕を撫して長嘆すと云うていたらくであります。本日は是で失礼致します。折角貴台の御健祥を祈ります。敬具

方城村の林野

農業会館林業部長 永野久雄

植林と言へば殆んど杉、檜、松に限る様な考へ方であつた方城村内の山野は実に村面積の六〇%に当る廣大な土地。之を合理的に経営する事は最も急務なりと考へられる。今回農業会館(縣下に於て初めて建設)運営事業の一として林業部は之を取上げ急速に実行に移して居る。治山治水の面では縣行造林の増殖(畑側二〇町歩弁城側一〇町歩)之は松、檜、弁城奥ヶ畑に展示林として(岩石地)一反歩、示林として(木炭用)一町歩殖林するよう既に準備を終え(縣より苗木の送着を待つて居る。尚新品種(最も早く短期間に収材出来るもの)を改殖し経済好轉を計る爲め縣林業試験場に當時経済課長現公民館主事、荒木氏と同道出張)交渉の結果、場長來村、中島技師は二回に涉つて來村試験地の現地調査をせられ、弁城に三ヶ所畑に二ヶ所の試験地(各一反歩)を指定して左の苗木を本年植付ける事に決定した。モリシマアカシヤ(皮よりタンニン酸を取り木は薪炭用材(アメリカ杉一見檜の如く建築用材特に土台には最も適し腐蝕せず約五年で伐採)モクマラ主としてポタ山地帯に適する)といわれる樹種で將來は坑木としての利用價值が大きい等の試験を行い幸いに本村の地味氣候が適し好成績を挙げ得たならば方城村林野資源の開発と治水の問題一大革新がもたらされるであらう村民各位と共に期待は大きい。